

第4問 (20点)

次の[資料]にもとづいて、Z工業の11月の製造原価報告書および仕掛品勘定を完成しなさい。

[資料]

1. 棚卸資産有高 (単位:円)

	月初有高	月末有高
素 材	1,988,000	2,306,800
部 品	2,016,000	1,833,400
補 修 材	244,860	355,950
仕 掛 品	3,643,100	2,474,000
製 品	4,832,000	5,048,000

2. 直接工の作業時間および賃率

直接工の総就業時間の内訳は、直接作業時間 3,880 時間、間接作業時間 275 時間、手待時間 3 時間であった。なお、直接工賃金は 1 時間当たり 1,150 円の実際平均賃率で計算する。

3. 11 月中の支払等 (単位:円)

素材仕入高	6,440,000
部品仕入高	3,380,000
補修材仕入高	682,000
製品用接着剤購入額	5,000
間接工賃金当月支払高	940,000
間接工賃金前月末払高	160,000
間接工賃金当月未払高	140,000
工場事務員給料当月支払高	200,000
本社事務員給料当月支払高	300,000
電力料金 (測定額)	275,000
保険料 (月割額)	435,000
減価償却費 (月割額)	1,777,000
水道料金 (測定額)	99,000

※ 工場事務員および本社事務員に対する給料は、給与計算期間と原価計算期間が一致している。

4. 製造間接費は直接労務費の 105%を予定配賦している。なお、配賦差異は売上原価に賦課する。

第 5 問 (20 点)

[資料]

製品 G を量産する当社の正常操業圏は、月間生産量が 64,000 単位から 96,000 単位である。製品 G の販売単価は 600 円で、過去 6 か月間の生産・販売量および総原価に関する実績データは、次のとおりであった。

	生産・販売量	総原価
1 月	50,000 単位	11,750,000 円
2 月	64,000 単位	16,800,000 円
3 月	75,000 単位	19,000,000 円
4 月	85,000 単位	21,000,000 円
5 月	95,000 単位	23,000,000 円
6 月	90,000 単位	22,000,000 円

- 問 1 正常操業圏における最大の売上高と最小の売上高を求めなさい。
- 問 2 上記の実績データにもとづいて、高低点法による製品 G の総原価の原価分解を行い、製品 1 単位当たりの変動費と、月間固定費を計算しなさい。
- 問 3 原価分解の結果を利用し、当社の月間損益分岐点売上高および損益分岐点販売量を求めなさい。
- 問 4 当社の総資本は 400,000,000 円であるとして、月間目標総資本営業利益率が 0.5%となる月間目標売上高および月間目標販売量を求めなさい。